

感染症情報 6月27日～7月3日

府下小児科199医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1139例	（堺市 46例）
②ヘルパンギーナ	948例	（堺市 92例）
③溶連菌感染症	548例	（堺市 22例）
④おたふくかぜ	329例	（堺市 22例）
⑤咽頭結膜熱	127例	（堺市 6例）

が報告された。

感染症報告数は全体として前週より2%増加、ヘルパンギーナの増加が続き、第1位が感染性胃腸炎、第2位がヘルパンギーナ、第3位に溶連菌感染症が入った。ヘルパンギーナは前週に引き続き、36%と大幅に増加した。1, 2歳児に多く、高熱とよだれ、口内炎による痛みのため、食欲が減退するが、熱は2, 3日で収まる。泉北でも流行している保育園、こども園がある。熱が収まって1日経過し、食欲があれば登園は可能である。おたふくかぜは前週より5%減少に転じ、夏休みに入るので減少していくものと思われる。髄膜炎の合併が5%程度と多く、1000人に一人程度に難聴を合併する。任意接種ではあるが2回のワクチン接種をしておきたい。夏型感染症の咽頭結膜熱（プール熱）は27%減少したが、同じアデノウイルスによる扁桃炎は高熱が長引くケースも多い。はしか、風疹の報告はなかった。